

日本科学未来館 総館長

沖村 憲樹



日本科学未来館は、科学技術が人類社会にどのように関わってきたか、そして、将来いかにあるべきかを模索し、発信する場として生まれました。

爆発的な人類社会の発展と地球の急激な変動を考えると、地球と人類社会が将来永く持続的に発展しうるのかが、人類にとっての最大の課題となりました。その解決は、科学技術によるほかはありません。人類が、科学技術を深く認識し、正しい方向を目指すために、日本科学未来館は、ますます積極的に活動したいと考えております。

そのためには、わが国の研究者、小、中、高、大学の教育関係者、企業の科学技術者、学生をはじめ多くの方に、この活動に参画いただくことが肝要であります。そして、科学技術を理解したい多くの皆様に愛されることが必要であります。そして、この活動を、アジアを中心に、世界中に広げていく必要があると考えています。

館員一同、一層の努力をする所存であります。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

日本科学未来館 館長

毛利 衛



平成18年度末に運営業務を競争入札し、平成19年度は新しい組織体制で民間の知恵をより生かしながら運営を開始しました。そして、日本の科学館としては初めて海外専門家（ASTC）によるピアレビューを受け、さらにより良いユニークな科学館運営に取り組みました。また、アジア太平洋科学館国際会議（ASPAC）を開催し、国際貢献を果たせた年でもあります。この会議では未来館スタッフ自らの手ですべての運営を行い、参加者の高い評価を受けました。また国際的に通用する科学コミュニケーターの育成にも役立つ機会となりました。一方、複数のパートナー企業と連携し、新しい協力活動を始めた年でもあります。こうした協力を少しずつ積み重ね、国の機関としての新しい運営努力をしていきます。国からの予算が毎年減少する現実において、効率的な運営を図り、新しい活動を広げることは決して簡単なことではありませんが、常に進化する科学館を目指し、挑戦を続けていきたいと考えています。